

備前市事務事業評価シート

(平成23年度事業)

事業の概要		昭和60年度頃		根拠法令・例規等 備前市簡易給水施設及び給水に関する条例
事業開始年度				
総合計画	大項目 基本目標	01	安全で快適に暮らせるまちづくり	
	中項目 基本施策	01	生活しやすいまちづくり	
	小項目 施策	09	上水道及び簡易水道	
事務事業名	06	簡易給水施設管理運営事業		
このシート作成に要した時間				2.0 時間

事業の目的		Plan
対象 (誰・何に対して)	吉永町内の簡易給水施設利用者 (八塔寺、榎、和意谷、大藤上、大藤下、牛中地区)	
目的 (何のために)	対象地区に衛生的な飲料水を安定的に供給する。	
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	水の停滞しやすい場所でも、水質基準に適合しかつ衛生上の措置として、残留塩素を必要量保持した安心・安全な飲料水を供給する。また、施設の異常時などの速やかな対応により安定的な供給を行う。	

事業の実績			Do
細事業名	事業の説明	優先度	
簡易給水施設管理運営事業	定期的な水質検査及び施設の点検と非常時の速やかな対応により安全な飲料水の供給を行う。		
目的を達成するため実施した事業			

決算額	事業費等	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
	直接事業費	千円	5,143	7,043	5,316
	必要人員費	人	0.49人	0.39人	0.18人
	事業費	千円	8,838	10,752	7,044
	国庫支出金	千円			
受益者負担		1,751	1,834	1,806	
繰入金					
市債					
その他()					
一般財源		7,087	8,918	5,238	
受益者負担比率	%	19.8%	17.1%	25.6%	
結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	
結果指標量	人	132	135	130	
対前年比	%	-	102.3%	96.3%	
活動コスト	円	8,838,000	10,752,000	10,320,000	
単位当たりコスト		66,955	79,644	79,385	

事業の成果		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
成果指標名	年度	20.0	20.0	20.0	25.0
事業費に対する料金収入の割合	目標値(A)				
	実績値(B)	19.8	17.1	25.6	到達目標値
	達成率(B/A)	99.00%	85.50%	128.19%	30.0
成果指標設定の考え方・式や説明					
飲料水の水質及び供給量を維持しつつ、供給コストを縮減を図る。(料金収入/総事業費)					

事務事業の評価		該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください >	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い A
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B
	目的達成度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い A

進行年度(H24年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	前年と同様、コスト縮減に配慮しながら、安全な飲料水の安定供給に努めている。						

総合評価		総合評価
安全な飲料水の供給は、地域住民の生活と健康に欠かすことができないものであり、コスト縮減に努めながら、継続していく必要がある。		A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い A

平成25年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	現在の給水エリアを確保しながら、近接施設を統合することにより維持管理コストの縮減を図る。						

事業の意図する成果とつながら成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標を評価